

地域社会との緊密な連携を築く

地域とともに子どもたちを育てるPTA活動

— 家庭・地域・学校の連携のもとに —

長久手市立東小学校PTA

1 はじめに

本校は、昭和56年に開校し、今年度、創立40周年を迎える。令和2年度は、在籍児童数448名、学級数16学級（うち特別支援学級2学級）、PTA会員数348名でスタートした。保護者の中には本校の卒業生も多く、学校行事を始めとする様々な教育活動へも大変協力的な地域である。



【正門から臨む校舎】

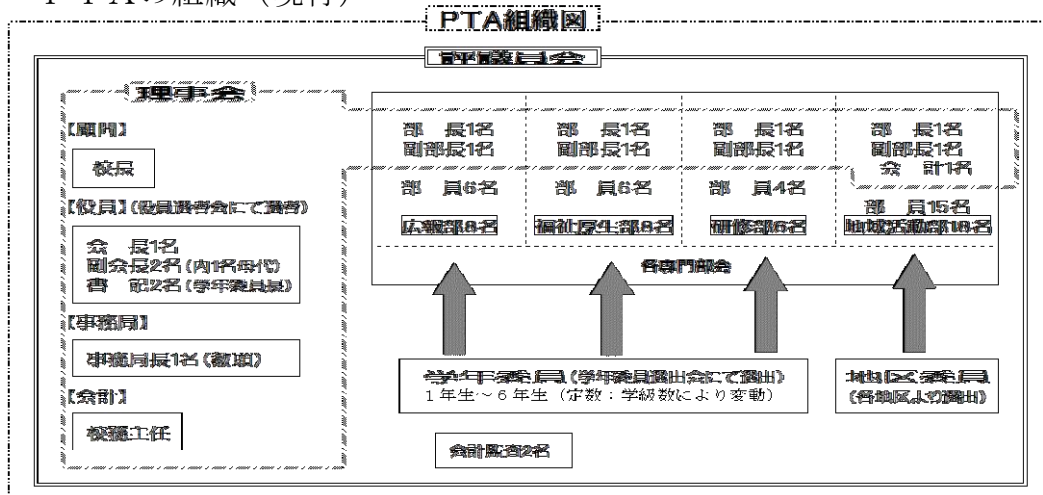
学区の広さは、長久手市全体の約半分を占めている。名古屋市や豊田市への通勤の便も良く、現在進行形で宅地開発が進んでいる。毎年約50人ずつ児童数が増加しており、直近5年間でも児童数は倍増（218名→448名）している。また、学区内には愛・地球博記念公園（モリコロパーク）があり、令和4年秋には、公園内に「ジブリパーク」の開業も予定されるなど、今後さらなる発展の様相を呈している。

2 研究への取組

(1) 研究のねらい

子どもたちの健やかな成長のためには、家庭・学校・地域が連携し、同じゴールに向かって、子ども一人一人を見守り、支援していくことが大切である。そこで、「参加しやすいPTA活動への変革」と「3つの支援（子どもたちの安全を守る支援、豊かな体験活動のための支援、教育環境整備のための支援）」を二本柱とした実践に取り組むこととした。

(2) PTAの組織（現行）



3 実践活動の概要

(1) 参加しやすいPTA活動への変革

① PTA組織改編

PTA役員の定数の見直しとその任期の短縮など、多くの会員（保護者）がPTA活動に参加しやすいように組織改編に取り組んだ。主な組織の改編は以下の通りである。

| | |
|-------------------|-------------|
| ア 副会長の定数の変更 | イ 副会長の任期の短縮 |
| ウ 総務の新設（母代と書記の統合） | エ 会計の廃止 |
| オ 福祉厚生部の活動休止 | |

② 学年委員の選出方法の変更

会員数の増加に伴い、児童数が少なかった頃からの学年委員選出の決まり事や選出方法を見直し、選出への負担感の解消に取り組んだ。主な変更点は以下の通りである。

| |
|---------------------------------|
| ア 「在籍する児童一人につき1回」を廃止する。 |
| イ 各学年の学級数にかかわらず、学年委員の定員数を4名とする。 |
| ウ 新1年生からの学年委員選出は行わない。 |
| エ 原則として長子の在籍する学年での学年委員選出とする。 |
| オ 学年委員の選出に際して以下の免除事項を設ける。 |

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ 過去5年間で東小のPTA役員・学年委員を経験している。・ 来年度、東小の地区委員が決定（予定）している。・ 来年度、中学校のPTA役員・委員が決定（予定）している。 |
|--|

(2) 3つの支援

① 子どもたちの安全を守る支援

ア 登下校の見守りと分団会への参加

地域活動部が中心となり、子どもたちの安全な登下校を見守っている。年度初めには「子ども110番の家」へのあいさつに伺い、地域での見守りを依頼している。また、学校で実施される分団会へも参加し、子どもたちの登下校の現状について、各分団の担当職員と共通理解を図り、子どもたちの交通安全に対する意識高揚に努めている。地域活動部による登下校の見守り活動は、交通安全指導のみにとどまらず、夏の暑い時期の熱中症対策や不審者対応など、今日的課題が山積している。

今後は、このような現状について、各家庭への啓発活動と見守り活動に対する理解と協力依頼にも注力していく必要がある。



【分団会の様子】

イ 関係諸機関、地域ボランティアとの連携

毎年11月に、通学路点検を実施している。信号機のない横断歩道や狭い歩道などの通学路の危険箇所を、地域活動部員、長久手市安心安全課職員および愛知警察署員とともに実際に歩き、現地確認を行っている。信号機の設置や交通指導員の増員などの要望を直接伝える機会となっている。



【通学路点検の様子】

また、毎日子どもたちの登下校を見守ってくださっているのが地域ボランティア「ちょパト隊」の方々である。毎年6年生が卒業を迎える2月、「感謝の会」を開催している。ちょパト隊や交通指導員の方々をお招きし、自分たちの安全を6年間見守っていただいたことへの感謝を伝えている。また、保護者の代表としてPTA会長も謝辞を伝えている。子どもたち自身が、地域に見守られながら育ってきたことをあらためて実感する場となっている。

② 豊かな体験活動のための支援

ア 門松作り

在籍児童および卒業生の父親を中心とした「おやじの会」では、毎年、正月の門松を作っている。子どもたちと一緒に、竹の切り出しから設置まですべて手作業で行う。新年、昇降口で立派な門松が、新たな気持ちで登校してくる子どもたちを迎える。子どもたちに日本の風習や文化を伝えるよい機会となっている。



【新年の登校の様子】

イ 図書ボランティア

各学期に数回、保護者を中心に構成される図書ボランティア（通称「ママぼん」）のみなさんが、各学年に合わせた絵本を選定し、読み聞かせを行っている。子どもたちは毎回、読み聞かせをとっても楽しみにしている。朝の15分間、子どもたちの表情は真剣で、絵本の世界に吸い込まれていく様子が伝わってくる。また、読み聞かせ活動以外にも、図書館の整理整頓



【読み聞かせの様子】

や本の修理など、子どもたちが本に親しみやすい環境づくりに努めている。

③ 教育環境整備のための支援

ア 七夕企画（笹の設置と短冊・笹飾り作り）

7月の「七夕読み聞かせ」の時期に合わせて「おやじの会」と「ママぼん」のコラボ企画として、笹の切り出しと設置、笹飾りと全校児童分の短冊作りを行っている。1年生から6年生まで、短冊に思い思いの願い事をしたため、笹につるす姿は、やはり、子どもらしくホッとする瞬間である。



【短冊・笹飾り作りの様子】

イ 親子除草作業

9月の第1週の土曜日に、福祉厚生部を中心に「親子除草作業」を実施している。毎年、暑さ対策として、朝6時30分から作業を開始していたが、遠方からの参加者に配慮し、今年度は開始時間を8時とした。例年は約150名の参加者だが、今年は300名ほどであった。祖母と父と一緒に3世代で参加する児童も見られた。児童・保護者・職員で、グラウンド一面に生い茂った草を雑談しながら抜いている。夏休み中の児童の家庭での様子などを知るよい機会にもなっている。



【親子除草作業の様子】

4 おわりに

いつの時代も子どもたちは、様々な人々と関わったり、様々な経験を積み重ねたりすることを通して、心も身体もたくましく成長していく。本校の児童が学校や地域で明るく元気に生活できているのは、保護者を始めとする、地域の方々の支えや見守りがあることを実感している。子どもたちを見守る地域の方のまなざしは、とても優しく温かい。本校児童の登下校や地域での様子について、よいことも心配なこともまず学校へ伝えてくださる保護者や地域ボランティアが多いことは大変心強い。今後も地域を巻き込みながら、子どもたちの成長を支援する、「学校の応援団」として、活発なPTA活動を展開していきたい。